

	参考資料5 (事前送付資料) ページ番号	委員からのご意見	対応状況	資料3 ページ番号
1	全体	東京都歯科保健目標について一目でわかるよう、1ページ程度で、ライフステージ等ごとに、それぞれの特徴や指標などを一覧にしたものを追加すると、わかりやすいと思います。	計画には、一覧を追加します。	—
2	全体	別添として、概要版4ページ程度のリーフレットを作成、配布してはどうでしょうか。	概要版を作成し、配布予定です。	—
3	全体	○ かかりつけの歯科医院の提案について 中医協において、「かかりつけ歯科医」の定義が議論されており、診療報酬にも影響が出そうです。先日12月11日に開催された特別区の歯科専門職研修においても保健医療科学院の三浦先生から「かかりつけ歯科医」の定義について、講義がありました。患者さんが歯科医院につくか、歯科医師につくかは、状況に応じてだと思いますが、患者さんと歯科医師が信頼関係にある場合は、歯科医師について、受診機関を変えている実態もあります。 同じような定義で、同じような言葉ができるのは、混乱を招くこともあるかもしれません。こういったことから、都の計画の中でも、「かかりつけ歯科医」を用いた方が良く考えます。	国は、中医協(第376回(平成29年12月6日開催))にて、かかりつけ歯科医の定義付けを行いました。(参考資料6) この経緯を踏まえ、本計画における「かかりつけの歯科医院」について、検討	—
4	全体	かかりつけの歯科医院については、従来どおりの「かかりつけ歯科医」と統一する方がよいと考える。 12月6日の中医協にて国が示した定義と今回の「かかりつけの歯科医院」と内容は同じ。同じ定義で都と国とで言葉を別々に2つ持つのは望ましくない。また、「かかりつけ医」「かかりつけ薬局」と併記する際、「かかりつけの歯科医院」となると違和感を覚える。 歯科医院というのは俗称なのであまり好ましくない。(正しくは、歯科医療機関または歯科診療所)また、かかりつけの機能を担うのは、歯科医院だけに限らないため、(病院ということもある)広くとらえられる言葉がよいのではないかと思う。		
5	全体	全体の体裁は、大変見やすくなりました。また、全体的に平易な言葉を使っていたり、語句の解説も追加され、都民にとってわかりやすいものになったと思います。		—
6	P1 14行目	「歯科の疾患」を「日本の歯科医療」に	修正しました。	P1 14行目
7	P1 20行目	ライフステージを → 都はライフステージを	修正しました。	P1 20行目
8	P1 28行目	地域包括ケアシステム P54以降の3 用語解説に説明されているが、それがわかるような印をつけた方がよい。	用語解説している文言については右肩に※をつけます。	—
9	P2 9行目	(20014) → (2014)	修正しました。	P2 8行目
10	P2 39行目	かかりつけの歯科医院 鍵かっこ「」が付いていないが、他の場所ではついている箇所があり統一した方がいいかも	第1章の4での記載のみ「」をつけています。	—

	参考資料5 (事前送付資料) ページ番号	委員からのご意見	対応状況	資料3 ページ番号
11	P3 5～9行目	「かかりつけの歯科医院」の役割の「1 定期的・継続的に口腔衛生管理をしてくれる」の内容として、「ライフステージに合わせた歯科保健指導」は必要ではありませんか？ 口腔ケアはセルフケアとして都民が自ら取り組むものですが、各ライフステージでセルフケアが効果的に行えるよう支援することも「かかりつけの歯科医院」の役割かと思います。「歯科口腔保健の推進に関する法律」の基本的事項の中でも、ライフステージごとの目標・計画のところで「食生活及び歯口清掃に係る歯科保健指導」がすべてのステージで記載されており(P75)、その役割を果たせるのは「かかりつけの歯科医院」ではないでしょうか。	①定期的・継続的に口腔衛生管理を行う ②歯と口や全身の状態を診て、必要に応じた口腔機能管理を行う ③コーディネーターとしての役割を果たすの3つの機能に、 ④ライフステージに応じた歯科保健指導を行うを追加するかどうか、検討	P3 4～8行目
12	P4 9行目	医科疾患 → 全身疾患 (医科疾患という言い回しはあまり聞きなれない)	修正しました。	P4 9行目
13	P4 18行目	口腔機能向上 → 口腔機能の獲得、向上	「口腔機能の獲得の推進」という表現はなじまないため、「口腔機能の向上の推進」としました。	P4 18行目
14	P4 23行目	18歳から30歳ごろとなっていますが、ごろが入るとぼけてしまうので、18歳から30歳としてしまっただけでは	「18歳から30歳まで」といった限定的なとらえ方をされる可能性があるため、「概ね18歳から30歳ごろまでの若い世代」という表記に統一しました。	P4 23行目
15	P4 35行目	都立心身障害者口腔保健センター 突然出てくるので、何がしかの説明が必要では。	用語解説に記載しました。	P68 35行目
16	P4 37行目	～大切さについて普及啓発 → 受診率の高さなどからも大切さは知られている。技術支援や環境整備など、もう一歩進んだ支援が必要と思う。	研修等にて、技術支援を含む知識の習得を支援していますが、環境整備の支援については、具体的な対応が難しいため、記載のままとしました。	P4 37行目
17	P5 1行目	障害者歯科 → 障害者歯科医療	「障害者歯科保健医療」としました。	P5 1行目
18	P5 10行目	質の高い在宅歯科医療の支援 → 具体性がないのでは	具体的な取組としては在宅歯科医療設備整備事業を示しています。	P5 10行目
19	P5 13行目	人材育成は、歯科専門職のですか？	「医師等の人材育成」としました。	P5 13行目
20	P5 17行目～	5の都民の目指す姿の達成 わかりにくい感じ です。 都民の目指す姿「都民がいつまでもおいしく食べ、会話を楽しみ、笑顔で人生を過ごすことができること」の達成を促進します。では？	「都民の目指す姿「都民がいつまでもおいしく食べ、会話を楽しみ、笑顔で人生を過ごすことができること」の達成に向けて、都民自ら取り組んでもらいたいことを掲げました。」としました。	P5 17行目～
21	P5 21行目	生涯を通じて食べる楽しみを → 上の記述では、会話のことも入っています。 フレイル予防が注目されている中で、社会参加に通じる「会話」のキーワードは、そのまま入れておいた方が良くないでしょうか	「生涯を通じて食べる楽しみや会話をする楽しみ」としました。	P5 22行目
22	P6 4行目	歯周病 → 特にむし歯(う蝕)と歯周病	本計画では、学齢期から高齢期まで、歯周病に着目し、その観点からデータ等で変化を示し、予防の大切さを記載しているため、このままの記載としています。	P6 4行目
23	P6 6行目	行動の充実は、違和感があります。 → 例えば 知識を充実し、実践につなげることで～期待できます。	修正しました。	P6 6～7行目

	参考資料5 (事前送付資料) ページ番号	委員からのご意見	対応状況	資料3 ページ番号
24	P6 図	平成28年度歯科疾患実態調査結果の概要(厚生労働省)のP10とP21のグラフなどを挿入したほうがわかりやすいのでは	歯科疾患実態調査は、都道府県別の数値がなく、都民の状況を示すことができないため、このままとしました。	—
25	第2章 全体	P9 フッ化物の応用 P15 フッ化物の応用 P20 フッ化物の応用 P27 フッ化物の応用 統計処理を「フッ素入り歯磨剤を使用」と「フッ素入りかどうか不明」をまとめたらどうでしょうか。P15フッ化物配合歯磨剤の日本の占有率91.3%を考慮に入れて。	市場占有率は高い反面、認知度が低いことが課題の一つだと考えています。 フッ化物歯磨剤の使用については、「正しい使用方法を理解し効果を認識して、フッ化物入りの歯磨剤を使うこと」を啓発していきたいと考えているため、集計は記載のままとします。	—
26	第2章 全体	「取組の方向性」に主語は入らないのでしょうか。	第3章の各主体がそれぞれの関わりの中で取組の方向性に従って推進していくこととなります。そのため、主語を限定しない記載としています。	—
27	第2章 全体	(3)取組の方向性(他の項も同様)の実施主体は、後ろの(P39)各主体の役割のところで述べていることになりますか？できれば、それぞれ主語があると、わかりやすいと思います。		—
28	第2章 全体	文章中の参照している図表について、文中に番号を入れると分かりやすいと思います。	参照している図表は、直前の図表となっているため、このままとします。	—
29	P7 14～15行目	「5～6歳頃、…前歯のすき間が大きくなってきます。」のところですが、近年の調査では6歳臼歯より下顎中切歯の萌出の方がやや早くなっており、歯科医師国家試験でも「永久歯の最初に萌出する歯種を問う」問題は出されなくなっています。また、ハの字に生えてくるのは永久前歯で、すき間が広がるのは乳歯です。そこで、次のように修正したらいかがでしょうか。「5～6歳頃には前歯のすき間が広がり、乳前歯から永久前歯への生えかわりが始まります。また6歳臼歯も生え始めます。」	「5歳～6歳ごろ、前歯が乳歯から永久歯へと生えかわりが始まります。また、6歳臼歯も生え始めます。」としました。	P7 14～15行 目
30	P7 図1	むし歯(う蝕)のない者の割合(1歳6か月児)のグラフの縦軸のスケールを90～100に変更	1.6歳児と3歳児の割合の差を示すために、1.6歳児と3歳児の図を同じスケールにしています。	P7 図1
31	P7 図1、2	横軸は、年？ 年度？ 他のグラフも、年、年度、それぞれあると思います。 また、出典がH26なのに、H27まで、グラフに数値が入っています。	横軸は年度になっています。(一部、調査日現在のデータについては、その旨、記載しています。) 図1、2は、「平成26年から」との表記です。	P7 図1、2
32	P8 図3	縦軸のスケールを40～100に変更	区市町村間の差をスケールを大きくすることで際立たせる必要はないと考えているため、このままとします。	P8 図3
33	P8 15～16行目	引用している数値の出典や図表はどこですか。	文中に追記しました。	P8 15行目
34	P8 20～21行目	区市町村別にみると、むし歯のない3歳児の割合には、まだ地域差があります。 ↓ 1.6歳児のグラフも同じ傾向だと思います。両方のグラフにしてみたらどうでしょうか？その上で具体的に、奥多摩地区、島しょ地区、多摩地区などがむし歯罹患がやや多く、地域差があるとしては？	1.6歳児と3歳児では、目立って大きな特徴の違いがないため、指標に用いている3歳児をグラフにしました。(1.6歳児については、「東京の歯科保健」に掲載しています。)また、奥多摩や島しょは、対象者数が少なく、例年、結果が一定ではないこと、区部と多摩地区の範囲での比較では差があまりないため、記載のままとします。	—

	参考資料5 (事前送付資料) ページ番号	委員からのご意見	対応状況	資料3 ページ番号
35	P8 20～21行目	区市町村別にみると ～ まだ地域差があります。 となっておりますが、「まだ」というのは、必要でしょうか。健康格差に対する取組は、都の場合、これからかと思えます。	削除しました。	P8 21行目
36	P8 36行目	「歯並びに影響する」とありますが、口腔習癖は歯並びより噛み合わせへの影響が大きいので、「歯並びや噛み合わせに影響する」または「噛み合わせに影響する」だけでもいいと思います。 37～38行目の「口腔機能の低下」も小児期は「口腔機能の発達不全」と表現した方が妥当かと思えます。	修正しました。	P8 37行目 38～39行目
37	P9 13～14行目	「奥歯の噛み合わせの…効果的です。」の一文は、フッ化物の応用とは直接関係がないので、もし入れるなら本文の最後に「また、奥歯の噛み合わせの…効果的です。」としたらいかがでしょうか。	修正しました。	P9 18～19行目
38	P9 16、18行目	「乳幼児」という文言を使っていますが、乳児期の応用は積極的には推奨されていないと思われるので「幼児」でよろしいかと思われます。	修正しました。	P9 16、20行目
39	P9 20行目	「歯科健康診査」は「歯科健診」で統一してはどうでしょうか。	歯科健診に統一しました。(一部、法定の健診については、歯科健康診査と表記しています。)	—
40	P9 図5	P10の10行目あたりに関係すると思うが、少々わかりにくい。むし歯ありなしで分けた横棒グラフ(全体で100%になる)がいいのでは？	第2回の部会でのご意見を踏まえ、このグラフにしています。	P10 図5
41	P10 1、13行目	コントロール → 制限、もしくは管理	制限や管理という表記はかなり強い表現になるため、このままとします。	P10 11,23行目
42	P10 4～5行目	「砂糖の代わりに代用甘味料にする」は不要では… 小児歯科学会ではキシリトールなどの代用甘味料をとくに勧めてはいませんので。	削除しました。	P10 14行目
43	P10 6行目	「哺乳瓶で甘味飲料…」のところに続けて、「さらにこれらの飲料には酸も含まれていることが多く、酸によって歯が溶けやすくなります(酸蝕症)。」を加えたらいかがでしょうか。	追記しました。	P10 17～18行目
44	P10 6～8行目	スポーツドリンクにも砂糖が入っています → 部活動などを行う、中学生などにはよい表現かもしれないが、乳幼児や高齢者などでの熱中症予防や熱発時の緊急的な水分補給のためでは、「経口補水液」の表現がいいのでは	乳幼児が日常的な水分補給としてスポーツドリンクを含む甘味飲料を哺乳瓶で与えることについて、記載しているため、このままとします。(スポーツドリンクをより一般的な名称としてスポーツ飲料に言い換えました。)	P10 15行目
45	P12 2～3行目	「噛み合わせや歯並びの相談などを受けることができる」は「噛み合わせや歯並びの相談などを行うことができる」ではないでしょうか。	修正しました。	P12 16行目
46	P12 11行目	「むし歯(う蝕)予防に取り組みます。」のところに機能面も加えていただけると幸いです→「口腔機能の育成とむし歯(う蝕)予防に取り組みます。」	追記しました。	P12 25行目

	参考資料5 (事前送付資料) ページ番号	委員からのご意見	対応状況	資料3 ページ番号
47	P12 12～13行目	都では、今まで、低年齢児に対しては、嗜好の育成といった観点から甘味食品、飲料の摂り方について指導をしてきたと思います。今後は、「スクロースの摂り方」に焦点をあてると捉えて良いでしょうか。	スクロースの摂取も視点に加えました。	P12 26～27行目
48	P12 指標	「かかりつけの歯科医院～」の2つの指標はどちらかひとつでいいのでは。私の意見としては、「かかりつけの歯科医院で定期健診～」を残せばいいと思います。	「かかりつけの歯科医院を持っていること」が「かかりつけの歯科医院で定期健診や予防処置を受けること」とイコールになるよう普及啓発を進める必要があるため、併記しています。	P13 指標
49	P13 3行目～	ここからは、井上先生はじめ、学識の先生のご意見を伺っていただければと思いますが、都民にわかりやすくということでは、乳歯から永久歯の生え変わりについて、もう少し、丁寧に説明しても良いと思います。乳歯列のさらに後方に永久歯が加わって生えてくるので、保護者が永久歯の萌出に気が付きにくいということがあります。12歳までには乳歯が永久歯に生え変わりますという記載は、乳歯が全て生え変わるということでしょうか。第二大臼歯が萌出してくる時期は、人によってもう少し後だったかもしれません。	修正しました。	P14 5～9行目
50	P13 4～5行目	「5～6歳頃、6歳臼歯と・・・生えかわります。」は「5～6歳頃、6歳臼歯が生え、また下の前歯から生えかわりが始まり、12歳頃までには乳歯が全て永久歯に生えかわります。」としたらいかがでしょうか。		
51	P13 表6	全国(H28)の%の数値は小数点以下一位まででよいのでは？	引用元のデータが小数点以下第二位の場合は、そのまま引用しています。(表6はグラフに変更しました。)	P14
52	P14 1～4行目	わかりにくい。3割以上となり、比較的短期間にむし歯～	生えかわったあとのむし歯(う蝕)に着目しています。	P15 5行目
53	P15 7行目	時期であり → 時期でもあり	修正しました。	P16 22行目
54	P15 表8	「フッ素入り歯磨剤・・・」となっていますが、表1や本文では「フッ化物配合歯磨剤」となっていますので、統一した方がいいと思います(P27の表14も同様です)。	調査では、「フッ素入り歯磨剤」と表記しているので、そのままとします。	P16 表6
55	P15 26行目	フッ化物歯磨剤について、「フッ化物配合歯磨剤かわからない」という記載がありました。使っている歯磨剤が～かわからないと入れていただいた方がわかりやすいと思います。また、フッ化物配合歯磨剤を使用しているというの、調査の回答によるものであり、生徒本人が回答しているので、「フッ化物配合歯磨剤を使用していると回答した児童・生徒の割合は～」とした方が後の文章とのつながりが明確になるとと思います。	修正しました。	P17 2行目
56	P16 2、8行目	コントロール → 制限、もしくは管理、もしくは過剰に摂りすぎない	制限や管理という表記はかなり強い表現になるため、このままとします。	P17 19,25行目
57	P16 27行目	口臭が → 歯垢が蓄積し口臭が	口臭の原因は歯垢をはじめとするいくつかの要因があることが考えられるため、このままとします。	P18 4行目
58	P16 24～32行目	30行目「また、ほぼ毎日～なっています。」を24行目の「乳歯と永久歯が混在～」の前へ	表の説明が分割されるため、このままとします。	P18 7～9行目
59	P16 33～34行目	コントロールしなければ → わかりにくい表現では？	「保護者等の介入が減り、自己管理をしなければ」と修正しました。	P18 10～11行目

	参考資料5 (事前送付資料) ページ番号	委員からのご意見	対応状況	資料3 ページ番号
60	P16 36～37行目	ごもつともなご意見です。今後、実態把握した方がよいと思いますがどうすればいいでしょうか。なかなかの難題だと思います。		—
61	P16 37行目	実態把握はできてません。 ↓ 今後、詳細な調査が必要と思われます。	「今後、詳細な調査が必要です。」と修正しました。	P18 14行目
62	P17 24行目	シーラントについての説明は、溝をふさいで予防することを入れた方がわかりやすいと思います。	用語解説にて説明しています。	P18 38行目 (P65 39行目)
63	P17 36～37行目	「特に、むし歯(う蝕)や歯周病にかかる、再びむし歯(う蝕)や歯周病にかかるリスクが高くなる・・・」のところが分かりにくいと思います。「特に、むし歯(う蝕)や歯周病にかかる、成人期になって再度むし歯(う蝕)や歯周病にかかるリスクが高くなる・・・」ということでしょうか？	成人期に限らず、一度罹患すると治療をしてもまた罹患しやすいということを記載しました。	P19 10～11行 目
64	P17 40行目	効果 → 法	「デンタルフロスの使用方法と効果」に修正しました。	P19 14～15行 目
65	P18 3行目	ごもつともなご意見です。今後、実態把握した方がよいと思いますがどうすればいいでしょうか。なかなかの難題だと思います。		—
66	P19 9行目	「妊婦の方」は、「妊婦」または「妊娠中」に変更してはどうでしょうか。	「妊娠中」と修正しました。	P20 9行目
67	P19 13行目	意識が薄れる → 認識が甘くなる	「関心が薄れる」と修正しました。	P20 13行目
68	P20 図12	CPI → 他の箇所にもあるがCPIの説明が必要。特に新旧のCPIの分類が違うことの解説も必要。	CPIについては、用語解説に掲載しています。本計画では、CPIの分類まで触れていないため、特に記載していません。	P21 図15
69	P20 15行目	不整 → 不正	修正しました。	P21 15行目
70	P20 17行目	パーセントイル → 図○のパーセントイル	P6の「あなたの歯の数」は、印刷時に、絵として挿入する予定です。	P21 17行目
71	P21 1～4行目	図14で成人性歯周炎好発年齢の40代以降で未使用者の割合が高まっているのが気になります。歯周病治療のために歯磨剤の不使用を指導していたりするせいでしょうか？なかなか難しい課題ですね。		—
72	—	P41 日本歯科医学会 専門職が行う『口腔管理』 非専門職が行う『口腔ケア』と記述すると、  P22 16行目 誤嚥性肺炎の予防となるといった肺炎と口腔ケア、がん治療と口腔ケア←口腔管理 P24 4行目 周術期の口腔ケアに対応する歯科医師、歯科衛生士 ← 口腔管理 P34 6行目 口から食事を摂ってなくても口腔内が不衛生になるため、口腔ケアが必要です。 ← 口腔管理？ P35 3行目 定期的な歯科医師等の口腔ケア ← 口腔管理  でないかと矛盾しませんか。口腔管理、口腔ケアがごちゃ混ぜな感じです。	都民が一般的にわかりやすい表記にしています。	P23 17行目  P25 4行目  P35 6行目  P36 3～4行目

	参考資料5 (事前送付資料) ページ番号	委員からのご意見	対応状況	資料3 ページ番号
73	P23 15行目	次 → 以降	修正しました。	P24 16行目
74	P23 36行目	定期的な予防処置 → 定期的な健診や予防処置	「定期的な歯科健診や予防処置」と修正しました。	P24 36行目
75	P23 38行目	医科の → 全身	修正しました。	P24 39行目
76	P23 39行目	歯と口の健康と全身の健康 → 歯と口の健康を通じて全身の健康を支える 歯と口の健康と全身の健康は別のものではないため。	修正しました。	P24 39～40行目
77	P25	高齢期では、残存歯数が増えてきているからこそ、歯科治療も必要になってきている。高齢者は基礎的疾患をもっていることが多いため、医科歯科連携が欠かせなくなってきたことも入れていただければと思います。	追記しました。	P27 18～19行目
78	P25 18行目	また、歯を抜けたままにしておく～の記述の中に、フレイルとの関係、筋力の低下や社会参加の減少なども入れていただくと良いのではないのでしょうか。	フレイル予防について追記しました。	P26 24行目
79	P25 24行目	使い続ける → 活用し続ける	文脈を変更しました。	P26 24行目
80	P26 31行目	「口腔機能の維持すること」は「口腔機能を維持すること」に。	修正しました。	P27 34行目
81	P27 26行目	日常的にデンタルフロス → かかりつけの歯科医院の指導のもと、日常的にデンタルフロス	ここでは、日常的に使用することを強調したいため、このままの記載とします。	P28 27行目
82	P28 12行目	高齢期になると糖尿病を患う割合 → 糖尿病を患っている人の割合？ 13行目の双方向の関係だけではわかりにくいので、少し説明を加えた方が良いでしょう。	一部修正しました。	P29 12行目
83	P28 16行目	誤嚥性肺炎が少なくありません → 肺炎の中での誤嚥性肺炎の割合は数字が出ていると思うので、数字を入れても良いのではないのでしょうか。	人口動態等では、年齢別の誤嚥性肺炎の割合を抽出できませんでした。	P29 16行目
84	P29 4行目	総合的な口腔管理 → 総合的とはどういったことでしょうか。	削除しました。	P30 4～5行目
85	P29 6行目	どの年齢でも非常に高く → 高齢期の章なので、流れからすると「高齢期においては、どの年齢も高い」という意味だと思いますので、あえて「高齢期においては」と入れていただいた方がわかりやすいのでは	修正しました。	P30 6行目
86	P29 7行目	診療所患者調査 → 「東京都歯科診療所患者調査」	修正しました。	P30 7行目
87	P29 19行目	支えます → 目指します	修正しました。	P30 20行目
88	P31 24行目	～かかりつけ歯科医院をもち → この前に、低年齢の時期から、とか早い時期から とかをに入れていただいた方が良いでしょう。	追記しました。	P32 24行目

	参考資料5 (事前送付資料) ページ番号	委員からのご意見	対応状況	資料3 ページ番号
89	P31 30～32行目	施設と全体を逆にしていただいた方が、個人で受けている方がいることがわかりやすいと思います。施設での健診が少ないこと強調するのであれば、このままの順番で、「また」ではなく、「しかし」でつないだ方が状況が良くわかります。	一部修正しました。	P32 31行目
90	P31 33～36行目	困りごとが多いことが並べられていますが、健診を受けている人が多いのに、困りごとが多いようにも見えます。健診を受けている人と、受けていない人で分けることができますか？	データを確認します。	—
91	P32 表16	・医療圏別→保健医療圏別 ・障害者歯科医療に取り組む歯科診療所の数も必要。 ・人はとって協力医数(名)にした方が見やすい。登録医数も同様。	一部修正しました。	P33 表14
92	P32 35行目	「困難なときは紹介している」は、医療連携の考え方からすると必要なことでもあり、難しい治療は紹介する一方で、口腔衛生管理の体制をつくる必要があるというニュアンスが伝えられると良いと思います。	記載を修正しました。	P33 35,37行目
93	P33 1行目	人口割合からみても、多摩地区は少ないですか？もし、人口割合で、それほど差がなければ、あまり問題ではないかも知れません。	人口比は約7:3であり、協力医は、約8:2となっています。面積を考慮すると少ないと考えています。	P34 2行目
94	P33 7行目	知識の啓発になっていますが、技術の向上(実践)も必要ではないでしょうか。	実践を含む知識の啓発ということになります。	P34 8行目
95	P34 15行目	QOLを維持、向上する支えとなります → ～向上につながります または、～向上する基盤となります	修正しました。	P35 15行目
96	P36 23行目	定期的・継続的な口腔衛生管理が大切です → 後に口腔衛生管理の語句説明がありますが、「専門家による」と入っていた方がわかりやすいと思います。	他の部分では記載していないため、同様とします。	P37 33行目
97	P36 表21	在宅医療サービスを実施 → 在宅歯科医療を提供		P38 表19
98	P37 表22	在宅医療サービスを実施 → 在宅歯科医療を提供	調査項目が「在宅医療サービスを実施」となっているため、このままとします。	P38 表20
99	P37 22行目	在宅医療サービスを実施 → 在宅歯科医療を提供		P38 31行目
100	P37 表22	(医療圏別) → (保健医療圏別)	修正しました。	P38 表20
101	P37 18行目	在宅療養になっても → 在宅療養者は、特に定期管理が必要な対象ですが、なってもとなっているのは、通院が難しいからという意味合いが入っているのでしょうか？表現を工夫していただくと良いと思います。また、定期健診の内容として唾液の減少や歯肉の検査が特だされていますが、等を入れるとか、忘れられがちな口腔機能のチェックの例をもう1つくらい入れていただいた方が良いかと思います。	修正しました。	P38 29行目



	参考資料5 (事前送付資料) ページ番号	委員からのご意見	対応状況	資料3 ページ番号
102	P37 31行目	チェックシート等を活用しとありますが、すでに、都歯でシートを作成してもらっているのであれば、普及したうえで、活用を促すとか、このシートを研修会で活用し、知識の普及を図るとか、もう少し具体的にシートのことを記載していただいた方良いと思います。	30年度以降の新規の取組となるため、現時点での記載はこのままとします。	P39 1行目
103	P37 35～36行目	人材育成は、歯科専門職の人材育成ですか？	修正しました。	P39 5～6行目
104	P37 39行目	医療提供 → 医療	修正しました。	P39 9行目
105	P37 40行目	診診連携が記載されていますが、在宅療養者の場合、病診連携も重要と思われます。	修正しました。	P39 10行目
106	P39 4～9行目	都民の役割のところ、在宅療養者や障害者への支援を入れても良いのではないのでしょうか。	都民の目指す姿に対応する記載としています。	P40 3行目
107	P39 22行目	(3)区市町村 歯周疾患検診 ↓ 40,50,60,70歳の歯周疾患検診	用語解説で「40、50、60、70歳」の法定年齢について記載しています。	P40 21行目
108	P39 25行目	障害福祉や → 教育委員会、障害福祉や	追記しました。	P40 24行目
109	P39 29行目	高等学校 → 高等学校、特別支援学校	追記しました。	P40 28行目
110	P39 39行目	個人では、地域歯科保健への協力はなかなか難しいと思います。歯科医療関係者というのは、歯科医療関係の団体を言っていますか？	個人及び団体を含みます。	P40 38行目
111	P40 1行目	交流を深めていきます → 連携に努めていきます	修正しました。	P40 40行目
112	P40 5行目	東京都歯科医師会 → 東京都歯科医師会、東京都学校歯科医会、	学校歯科医会だけではないため、「学校保健関係団体」と追記しました。	P41 4行目
113	P42、43	東京都の数値を示した資料1や資料4などは数(東京都)などわかりやすく示した方がよい。	資料は基本的に東京都の数値となっています。全国や他県との比較をしている場合は、図表から読み取れるようにしています。	P72～
114	P48	資料 むし歯～(5歳児)の縦軸のスケールを40～80に変更	傾向を読みとる図となっています。	P78
115	P49	資料 むし歯～(6歳)の縦軸のスケールを20～80に変更 ・6歳は6歳児？	傾向を読みとる図となっています。	P79
116	P49～52	全国の%の数値は小数点以下一位まででよいのでは？	引用元のデータが小数点以下第二位の場合は、そのまま引用しています。	P79～
117	P53	資料 歯周疾患検診における要精検者の割合 → わかりにくい。(必要でしょうか？)	全国との比較が可能なデータであるため、このままとします。	P83
118	P52～53	資料 現在歯が～のグラフ(以降の3つのグラフも同様)に平成28年分くらいは数値を表記した方がよい	記載しました。(図を移動しました。)	P20 図14
119	P54 30行目	出でこない → 出てこない	削除しました。	—

	参考資料5 (事前送付資料) ページ番号	委員からのご意見	対応状況	資料3 ページ番号
120	P58 9行目	「歯科保健教育」の説明の変更	本文中で使っていないので、用語解説から削除します。	—
121	P58 22、30行目	歯周疾患、歯周病は1つでいいのでは。歯周疾患検診は2015のマニュアルから歯周病になったと思うが。そのあたりの説明も必要。	国庫補助事業では、歯周疾患検診となっており、マニュアルについては、本計画の中で触れていないため、特に説明は記載しません。	—
122	P60 5行目	「多職種」の説明の挿入	削除しました。	—
123	P60 29行目	「子どもの頃」は「子供の頃」に。	修正します。	P69 5行目
124	P61 23行目	「歯磨き剤」は「歯みがき剤」に。	他の表記に合わせ、「歯磨剤」に修正します。	P69 34行目
125	P62 15行目～	第一大臼歯も図中に表示し、図中の第二大臼歯の説明を文章中に移動しては、どうでしょうか。	第一大臼歯と第二大臼歯を示すイラストを挿入します。	P71 10行目
126	P62 27行目	CPI → 新CPIと旧CPIの説明が必要。	本計画では、詳細なCPIの説明は不要と考えています。	—